

論文要旨

論題：子育て主婦の消費を通じたアイデンティティ形成に関する研究
—相互交錯フレームワークを手がかりに—

指導教授：木村 純子 教授

2011 年度法政大学大学院経営学研究科経営学専攻修士課程修了

マーケティングコース

加藤 栄美

本研究は、子どもを持つ主婦のアイデンティティが家族とのコミュニケーションや消費行動によってどのような影響を受けているのかを明らかにし、子どもを持つ主婦の消費者行動を理解する手がかりを得ることを目的とした。

Epp & Price (2008) のアイデンティティ相互交錯フレームワークに依拠し、子どもを持つ主婦のアイデンティティの束の存在を確認した上で、家族とのコミュニケーションの形態や消費行動が主婦のアイデンティティの束に与える影響とアイデンティティの束のバランスが変化することを考察した。

子どもを持つ主婦のアイデンティティのありさまを知るために、小学1年生から小学3年生までの娘を持つ主婦を対象に7日間の食事の記録と日記形式のセルフレポート、娘との手づくり料理、コラージュ作成、およびインタビューを実施した。得られたデータは解釈主義アプローチに依拠して考察した。

本稿で明らかになったことは以下の3点である。

1 点目は、子どもを持つ主婦のアイデンティティは個のアイデンティティ、関係性のアイデンティティ、集団のアイデンティティが束として存在し、家族メンバーとの食事や経験のシェアリング、消費行動によってアイデンティティの束に占めるそれぞれの割合が動的に変化していた。

2 点目は、家族によって時間や身体や思考をシェアされた主婦は、アイデンティティの束のバランスが崩れることを防ぐために、家族メンバーとは関連しない時間や消費行動によって個のアイデンティティを保っていた。

3 点目は、子どもを持つ主婦はアイデンティティの束のバランスを崩す可能性があるにも関わらず、家族からのシェアリングを望んでいた。主婦は家族にシェアされることによって、妻や母親としての関係性のアイデンティティを保ち、アイデンティティの束のバランスをとっている。子どもを持つ主婦と、子どもを持つ主婦をシェアする家族メンバーは相互に依存していた。

以上